

経営比較分析表（令和元年度決算）

神奈川県相模原市 相模大野立体駐車場

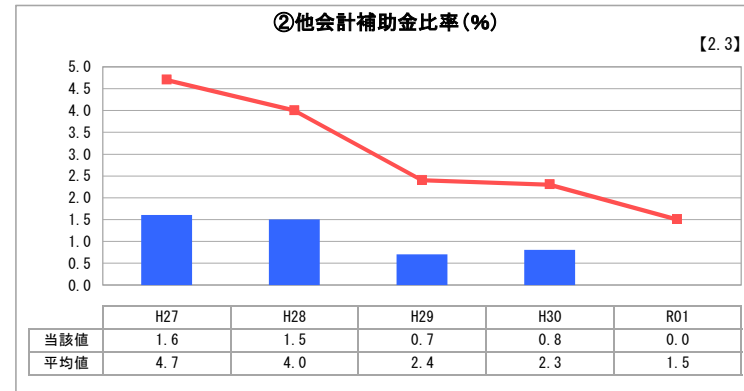
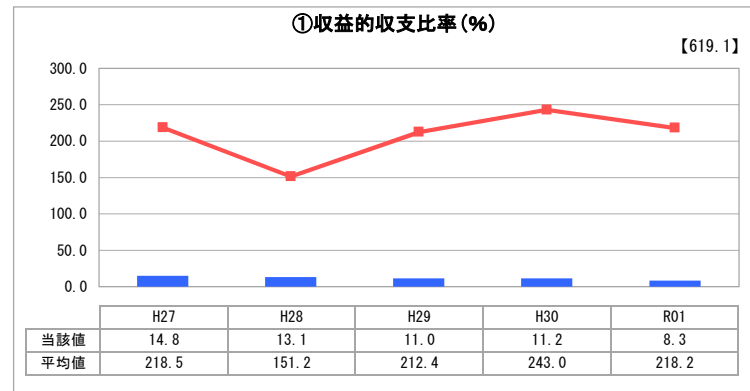
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 1 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	立体式	32	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
商業施設	無	26,488
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
856	300	代行制

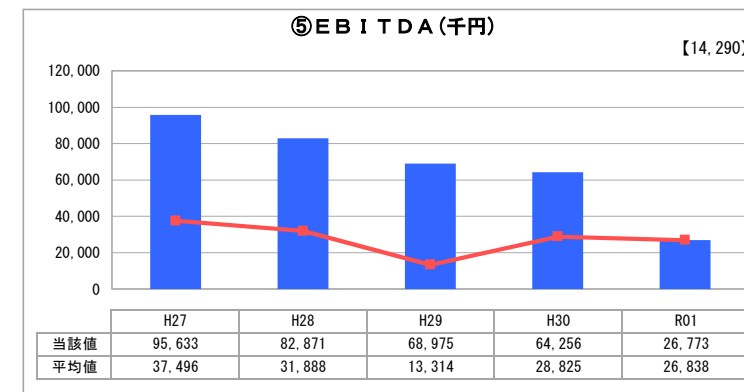
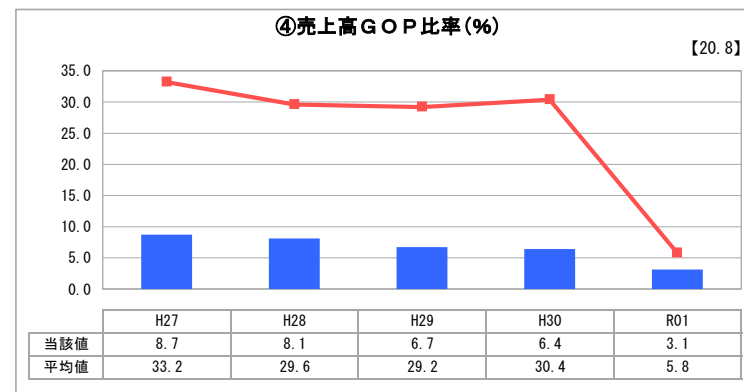
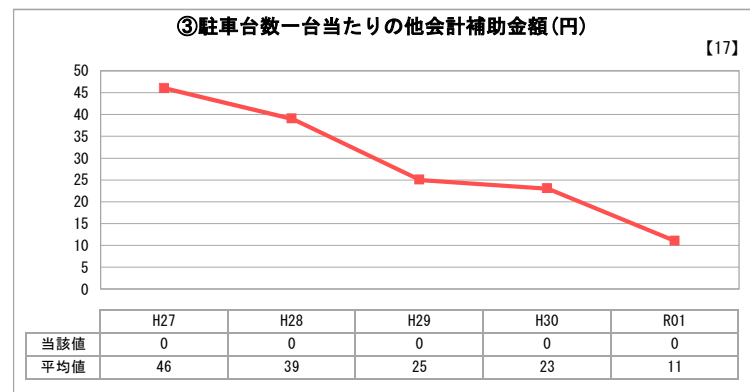
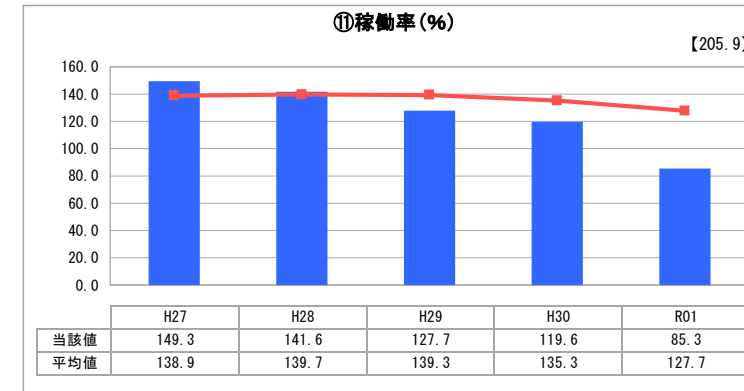
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

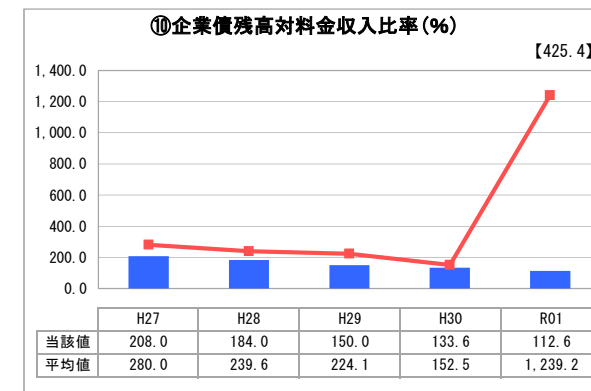
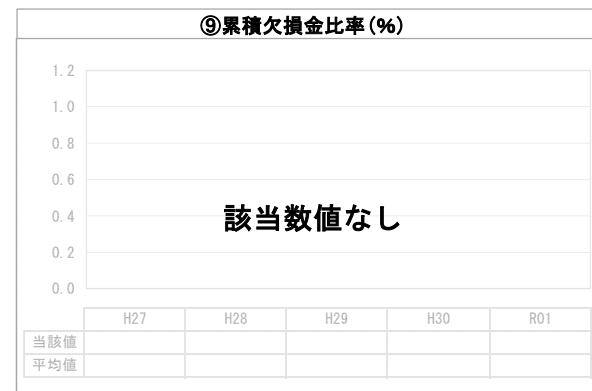


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

-



分析欄

1. 収益等の状況について
 本駐車場は、通行量が多い地区で円滑な道路交通を確保するため、昭和63年より供用開始しました。駐車場の料金収入等で支出をどの程度賄えているかを示す収益的収支比率(%)は利用状況の減少と連動して減少傾向にあります。また、100%を切っておりますが、これは駐車場建設費の償還を行っているのが大きな要因となっております。なお、相模大野立体駐車場の駐車場建設費の償還は完了しております。

2. 資産等の状況について
 企業債残高対料金収入比率は徐々に減少しているものの全国平均と比較すると高い数値となっております。これは駐車場建設費の償還が残っているためで、令和14年度には全駐車場の償還が完了します。

3. 利用の状況について
 当該駐車場は徐々に利用率が減少していますが、これは平成25年に近隣に相模大野駅西側自動車駐車場が共用開始されたことにより、利用者が分散されたことや周辺商業施設の駐車場サービスの変更が要因と考えられます。また、令和元年の稼働率は、令和元年9月末に隣接する大型商業施設が閉店したため、大きく下がっており、令和2年はさらに減少しております。

全体総括
 駐車場自体が集客能力が低いことに加え、環境面への配慮、駅前の交通渋滞の緩和、人口の減少等の要因から車離れの傾向がある現在では収益の増加は難しい状況です。駐車場法に基づき、一定の割合は市が維持していきますが、利用状況や周辺の民間駐車場の配置状況等を踏まえ、今後運営方法等について検討していきます。